

談論 風発

583

昨年、イギリス国立公文書館で竹島問題の調査を行った。公文書館はロンドン西部にある。中心部からの乗換駅ハマースミスでは、駅の北側で1910年に日英博覧会が開かれたことを思い、感慨深かった。05年の竹島編入後に、中井養三郎らが設立した竹島漁猟合資会社がアシカの毛皮を出品して銀賞を得たのが、この博覧会だったのである。

調査で収集した英国政府の資料のうち、54年10月7日付でソウルの英国公使館

日本安全保障戦略研究所 研究員 藤井 賢二

竹島問題の「常識」



国家の主権行為こそが重要

が本国に送った日韓関係に支配していた時代に独島を依頼したと報道された。ついでに報告の一部を紹介したい。

「現時点でもっとも活発な動きがあるのは独島（竹島）の領有をめぐる争いである。ハーグの国際司法裁判所に問題を付託するとい

支配していた時代は、日本の地方政府ではなく朝鮮総督府に管理された。54年6月に海洋警察隊を派遣し、8月と11月に竹島に派遣し、海上保安庁巡視船を攻撃するなど、不法占拠を強行した。

53年7月に海上保安庁巡視船が竹島で銃撃され、竹島に在韓英国公使館の報告に

断る上での基本的な観点を踏まえている点である。「伝説的な歴史」より過去の行政機関が管理していたかを重視しているよ

うに、遠い過去の歴史上の事件による間接的な推定でなく、判断の対象となる土地に直接関係のある証拠が重視されるのである。

もう一つは、朝鮮総督府が竹島を管理していたという偽りを述べた何者かという点である。言うまでもなく、10〜45年の日本統治期に竹島を管理していたのは島根県であった朝鮮総督府ではない。韓国政府の口上書にも朝鮮総督府の管理などは書かれていない。

竹島漁猟合資会社が経営

不振に陥った後、設立者が持っている竹島でアワビなどを採る漁業権は、鬱陵島で缶詰製造をしていた島根県出身者に私的に貸し出された。現在、この缶詰業者が朝鮮人を使用して、この行為こそが主権行為であり、決定的に重要なのである。

竹島が朝鮮総督府に管理されていたという偽りを述べた何者かは、前記言説よきまえていたのかもしれない。

ふじい・けんじ 島根県吉賀町出身。同県竹島問題研究会研究委員。最近の論考に「対日講和条約と竹島」(『島嶼研究ジャーナル』8巻2号)がある。